

# 「レディカンヴァセイション」

作 FOペレイラ宏一朗

大溝正一 大学三回生 文学部 夢なし

島田敏夫 大学四回生 経営学部 元ボーイスカウト

横井広子 大学三回生 文学部 大溝の彼女

田崎圭吾 大学三回生 文学部 横井のことが好きだった。

舞台上、四人並んでいる。上手より、大溝、島田、田崎、横井。均等な間隔で並んでいる。多少、アウトドアな格好。四人は同じサークルのメンバー。

年末。大きな地震のようなものが起こり、名古屋屋にある雑居ビルが倒壊した。そこに埋まった、残された四人の話。

大溝のほぼ真上に島田が横たわって埋まっており、そこから少し離れたところに田崎が埋まっている。横井が埋まっている場所は大溝から一番遠い。

ゆっくりと明かりがつく。それぞれにスポットライトが当たっている。

田崎 いやあ、、、美味かったですねえ、ひつまぶし。

島田 ああ、そうな。

田崎 まさかお茶漬けにするという裏技があるとはね。

島田 ああ、そうな。

田崎 あと、昨日の夜食べた、味噌カツ定食、あれも美味かったですねえ。

島田 ああ、そうな。

田崎 でも、やっぱり、思い出されるのは粉もんの味ですね。

島田 ああ、そうな。

田崎 あ、でも島田さんは四国出身だからうどんの方がいいんですかね。あ？あれも粉もんか。

島田 ああ、そうな。

田崎 って言っても僕も兵庫なんで粉もんって言うほどでもないんですけどね。

島田 ああ、そうな。

田崎 あ、でも、明石焼きとかそばめしとかが実はあれなんですよ、名産？ソウルフードで。それを考えると粉もんなのかなって。どっちだと思います？

島田 ……何が？

田崎 だから、兵庫は粉もんかそうじゃないか。

島田 ……ゆるキヤラ？

田崎 それはコナモン。。。いやいやいやそんなキヤラいないか。

少しの間。

田崎 ちょっと島田さん、もうちょっと会話をしてくださいよ。

島田 え？

田崎 話聞いてました？

島田 ああ。

田崎 ずいぶん雑な受け答えだったじゃないですか。いいんですか島田さん。

島田 ……何が？

田崎 島田さん先輩でしょ？年上としてそんな受け答えして恥ずかしくないんですか？子供みたいですよ。

島田 別にいいよ。

田崎 どうしたんですかどんどん口数が少なくなってますよ？大丈夫ですか？眠たいんですか？（はつきり）寝たらだめですよ。

島田 それは山の場合な。

田崎 え？

島田 ちなみに、寝ること自体は悪くなくて、疲労から寝てしまった場合、もともと体力も残されてないからそのまま衰弱して、疲労凍死。結果として死ぬんだよ。

田崎 へえー。勉強になりますね。

島田 おまえうるさいよ。ちよつとは落ち着けよ。

田崎 落ちつく？

島田 そうだよ。大溝とかを見習え。

田崎 いやいやちよつと。いいですか島田さん、僕は、暗い空気になるのを防ごうとなんとか明るく振る舞ってるんですよ。

島田 そうなの？

田崎 そうですよ。わかるでしょ、このがんばり。普段の僕とは全然明るさが違うでしょ。

島田 わかんないよ。

田崎 わかってくださいよ。サークルじゃいつもクールでしょ？  
島田 うるさいなあ。

田崎 え、うるさいってどういうことですか。マイナスな意味ですよね完全に。

島田 田崎、ごめん、ほんとに黙ってくれる？

田崎 命令ですか。

島田 え？

田崎 それは先輩としての命令ですか。

島田 そういうわけじゃないけど。

田崎 命令なら聞きますよ。仕方なくね。でもね、僕は思うんですよ。この状況でもはや先輩とか後輩とか言ってもらえないんじゃないかって。同じ状況に立たされている以上、上下の関係なんてないと思うんです。さっきはつい先輩と言ってしまいましたけど、もはや仲間、同志なんじゃないかって。その中で気を使い合うより、一丸となって問題に取り組むことが、今の僕たちには必要なんじゃないかって。先輩もそう思いますよね？あ、結局先輩って言ってしまいますね。

島田 おい、大溝、田崎構ってやってくれ。大溝？

田崎 いやでも実際のところ、僕たちは今この状況でまさに社会から断絶された状態でありまして、そのことを考えると結構な危機？的状況だと思うんです。これはまさに、古くはエウリピデスの劇から、

島田 おい大溝大丈夫か？

間。

島田 大溝？

田崎 どうしたんですか？

島田 いや、大溝が、返事、、、え、大溝、

田崎 え、大溝、大溝、冗談だろ？

島田 大溝、返事しろよ大溝、

田崎 横井、

大溝、起きる。

大溝 は・・・あれ、あれ、

島田 よかった大溝、

田崎 なんだよ寝てただけかよ。

大溝 え、あれ、島田さん、田崎、え、声だけ、あれ、なんで、あれ、

島田 落ちつけて。

大溝 あ、そうだ、なんか、大きい音がして、揺れて、崩れて、あれ、ヒロコは？ヒロコ、ヒロコ、

島田 横井もいるよ。ちよつと遠いけど、

横井 なにー？

大溝 あ、そうか、あ、あ、ああ・・・。

横井 なにー？

大溝 なんでもない。

横井 そー。

田崎 いや、でも凄いですね、島田さん。

島田 なにが？

田崎 いや、寝るだけなら問題ないって。当たってましたね。

島田 あ、ああ。

田崎 でも島田さん、その割には滅茶苦茶焦ってましたよね。あれちよつと不安でしたよ。

島田 そりゃあ仲間の一人が意識不明だったら心配はするだろ。

田崎 まあそうですけど。

大溝 俺、寝てたんですね。

島田 ああ。

大溝 ずつと起きてたんですか？

島田 まあ、うん。

大溝 そつか。すいません。

島田 無理もないよ。昼間は結構歩いて疲れたからな。ちよつとは疲れとれたか？

大溝 いえ、まあ、ちよつとは。体制的にはラクじゃないんで。

島田 そつか。

大溝 じゃあ、状況は変わらず、

島田 そう。見ての通り、って言っても見えないか。変わらずみんな瓦礫に包まれてるよ。

少しの間。

大溝 あ、ヒロコの様子は？

田崎 は？

大溝 いや、大丈夫なのかなって。

田崎 そんなの自分で聞けばいいだろ。

大溝 そうなただけど、ほら。

田崎 なに？

大溝 その、俺が寝てる間になにか、とか気になって。

田崎 なんだよそれ。そんなの直接聞けばいいだろ。

大溝 ああ・・・。

島田 おまえら、そういえば今日の昼間からあんまり口聞いてないな。なにかあったのか？

大溝 いや、まあそういうわけじゃないんですけど。で、どうでした？

島田 ああ、横井もずっと起きてたんじゃないか。おまえのこと心配してたと思うぞ。

大溝 そうですか。

田崎 おまえだって心配なら横井の近くに行けばいいだろ。

島田 まあそう言うなよ。できないんだからさ。

間。

大溝 でも、ほんと奇跡に近いって言うか、俺たち四人とも助かるって不幸中の幸いですよね。

島田 まだ助かったとは言いがたいけど。

大溝 ですけど、少なくともビルが崩れたときに死んでもおかしくないわけじゃないですか。

島田 まあな。

田崎 ま、大溝がそもそもこのビルに入りたいたいなんて言わなかったらこんな目には遭わなかったんだけどな。

島田 おい、田崎、

田崎 でも実際そうでしょう。

大溝 あ、ごめん・・・。

島田 やめろよ、今はそんなこと言ってる場合じゃないだろ。

田崎 ・・・。

島田 それに、ビル自体は俺も賛成してたよ。廃ビルなんてはじめて入るって言って。

田崎 そうでしたっけ。

島田 そうだよ。それに、おまえも最終的に同意してただろ。大溝がとかそんなこと言うなよ。とりあえず今は、じっと救助を待つかないんだよ。大人しくしてろ。

大溝 ・・・すいません。

島田 おまえも謝るなって。

大溝の頭上から血が少し降ってくる。

大溝 つめたっ、

島田 え？冷たいって、そんなきつい言い方したか？

大溝 あ、いや、なんか、上から、水かな、

島田 水？

大溝 はい、なんか、水が顔に。  
田崎 なに？

大溝 なんか、水が垂れてきて。

田崎 水？よかつたじゃん。

大溝 なんぞ？

田崎 いや、もしこのままだったら、いつかは水分に困るだろ。ねえ島田さん。

島田 ああ、まあこういうとき水の確保は大切だけど。

大溝 そうなんぞすね。

田崎 島田さんは元ボーイスカウトなんだって。

島田 でも、飲める水かわからないから、何か容器とかに入れて溜めておく方がいいかな。

大溝 容器ですか。

島田 ないか？

大溝 それが、上手いことはまって、身動きが取れないんですよね。

島田 ああ、そうか。

田崎 それなら直接飲んどけば？

大溝 ああ。

大溝、血を飲む。

大溝 ウエツ、

島田 どうした？

大溝 いや、凄い鉄の味が。錆びてるところでも通ってきたのか。

田崎 ああ。

大溝 あ、でもダメだ。少しずつだし、ずっと顔上げてるほうが疲れるよ。

田崎 そうか。

島田 服が濡れないようにしろよ。冷えて体温が下がるからな。

大溝 はい。

間。

大溝 雨でも降ってるんですかね。

島田 さあな。

田崎 あ、それか、島田さんが漏らしてるとか。

大溝 え？

島田 なんて俺が、

田崎 だって、島田さん大溝の上にいるわけでしょ？

島田 まあ、声の感じからするとな。

田崎 だったら、島田さんが漏らしたら下の大溝に垂れるわけじゃないですか。

大溝 そうなんぞすか島田さん。

島田 違うよ、漏らしてないって。

田崎 そうやって強く否定するところが怪しいですね。

島田 待てって、本当に違うから。それに、俺は大溝の上に横たわってる形で、顔が大溝の真上なん

だぞ。漏らしてたって大溝に行くかどうか、  
田崎 どうして横たわってるなんてわかるんですか。

島田 それは、重力の感じで、

田崎 いやあ、目で確認できないですからねえ。

島田 おいおい。

大溝 いや、でも、大丈夫ですよ。わかってますよ。

田崎 なんです。

大溝 味的にしよっぱさとか、苦味もなかったし、おしっこっぽくなかったから。

島田 ほらな。

田崎 ああ。

間。

島田&田崎 え？

大溝 どうかしました？

島田 いや、

田崎 それおかしくない？

大溝 なにが？

田崎 いやだって、

大溝 なんだよ。

田崎 おまえなんで、その、味、知ってるの？

間。

大溝 え？

田崎 おまえ、飲んだこと、あるの？

大溝 え、あ、いやいやいや、

田崎 でも飲んだことある口ぶりだったじゃないか。

大溝 イメージだよ、イメージ。

島田 イメージでそんな細かいところまで、

大溝 島田さんまで。

島田 いや、俺もさすがにその、飲んだことなかったから、

大溝 だから俺も飲んでないんですって。

田崎 誰のだよ。

大溝 は？

田崎 誰のだよ？自分の？他人の？

大溝 いやだから、

田崎 まさか、横井の、

大溝 違うって。ヒロコは関係ないだろ。

横井 なにー？

大溝 なんでもない。

田崎 あのさ、横井、違ってたら悪いんだけど、

大溝 やめろ、  
横井 なにー？

田崎 なんでだよ。

大溝 ヒロコにまで飲んだのとか思われたら面倒だろ。

田崎 飲んでないなら大丈夫だろ。

大溝 そういう問題じゃなくて、

余震。

一同静まりかえる。

大溝 今、少し揺れましたよね……。

田崎 ああ……。

島田 大溝、田崎、大丈夫か？

大溝&田崎 はい。

横井 今揺れましたー？

島田 ああ。上の方は大丈夫か？

横井 大丈夫ですー。

島田 結構間の空いた余震だな。七時間、ぐらいか。

大溝 また大きな揺れがくるかもしれないね。

田崎 (小さく) 次は死ぬのかもな。

間。

横井 ねえー、

島田 何かあったのか？

横井 あ、いや、雨降ってるっぽいんでー。

大溝 あ、本当に降ってるんだ。

横井 一応報告しておこうかなってー。

島田 そっか。わかった。

横井 はい。

田崎 雨か。

島田 救助活動も遅れそうだな。

田崎 巨大地震でビルが崩れて、雨、携帯は全員なぜか圏外、救助は絶望的、生き埋め。いい大晦日ですね。本当は今頃大阪に帰ってるはずだったのに。

島田 だからやめろって。

田崎 これぐらい許して下さいよ。言っていないと、おかしくなりそうなんですよ。

少しの間。

田崎 実際、一番内心焦ってるのは島田さんなんじゃないですか？

島田 は？なにが。

田崎 ほら、もし助かったとしても、廃ビルに入り込んだのがバレたら、せつかく決まった就職に

も響くんじゃ。

島田 ああ・・・。

田崎 そういうの、すぐネットとかであればれるじゃないですか。

島田 (大きく) あの、その、それなんだけど、

大溝 なんですか？

島田 いや、俺、実は受かってなくって、

大溝 え、そうなんですか？

島田 うん。

田崎 なんて黙ってたんですか。

島田 タイミングなくって。

田崎 でも、なにも今言わなくても。

島田 うん、まあ、今だから。

田崎 ええ、島田さん、なんですか、あきらめてるんですか？俺にネガティブな発言やめろとか言うておいて、自分があきらめてるんですか。

島田 いや、そうじゃないよ。

田崎 じゃあ、なんなんですか。

島田 その、どうせ身動きとれないなら、全部さらけ出してもいいのかなって。

田崎 なんですかそれ。勝手じゃないですか。さっき僕が話そうって言ったときは拒否したくせに。

島田 いやそれは、助かる方法とか考えてたから。

田崎 で、今はあきらめたから話そう、ですか。

島田 そういうわけじゃないよ。ただ俺は、

横井 あのー、

少しの間。

島田 どうした？

横井 ショウちゃん、あ、大溝くん大丈夫ですかー？

島田 ああ。

横井 ありがとうございますー。

田崎 ああ、イライラするな。

島田 どうしたんだよ。

田崎 大溝と横井ですよ。イライラするでしょう。お互いに話し合えばいいじゃないですか。

島田 まあそうだけど。おまえもなんで大溝ばかり攻撃するんだよ。

田崎 原因を作ってるのは大溝ですよ。

島田 何もそう怒るほどでもないだろ。

田崎 おい大溝、なんで横井と話さないんだよ。

島田 おい、

大溝 いや、その、

田崎 カップルなんだったら話せばいいだろ。変な気を使わずにさあ。

島田 二人には二人の事情があるんだろ。

田崎 なんだ？俺に気を使ってるのか？俺が横井のこと好きだったからか？

大溝 いや、そういうわけじゃ、



田崎 だったら話せよ。変な感じになるだろ、喋れよ。前みたいに喋れよ。

島田 田崎？

田崎 俺、もう別にそんなこと何も恨んでねえよ。知ってるんだぞ、俺がいるときはワザと二人が喋らないようにしてるの。なんだよそれ。馬鹿にしてんのかよ。

大溝 だから違うって。

少しの間。

田崎 俺だって前みたいに話したいよ。ふざけんよ、バカみたいじゃないか、俺。

間。

大溝 田崎、ごめんな。

田崎 謝るなよ。

大溝 ごめん。俺、そんな細かいこと考えてないよ。

田崎 知ってるよ。

大溝 ただ、なんとなく、むしろ、気にしてなかったからそういう空気にしちやったのかな。

田崎 なんだよそれ。

大溝 おまえさ、まあ島田さんもだけど、少人数のサークルでさ、カップル出来てさ、で、俺基本的に空気読めないだろ。だから、迷惑かけないために、目立つこと避けようと思ってたんだ。

田崎 ふざけんよ。

大溝 うん。ヒロコにも同じこと言われた。俺、ほら、人の気持ちとかわからないから。

田崎 そうやって逃げるのかよ。

大溝 ごめん。

田崎 だから謝るなって。おまえは悪いことしてるわけじゃないんだよ。

大溝 ああ・・・。

田崎 顔が見れなくてよかったよ。

少しの間。

大溝 それで、このサークルの旅行も、やめたほうがいいんじゃないかって。むしろ俺たち別れた方がいいんじゃないかってヒロコに言ったら、なんか変な感じになっちゃって。

田崎 ばかかよ。

大溝 うん、そうみたいだ。

横井 ねえー。ショウちゃん、

一瞬の間。

田崎 おい、大溝。

大溝 うん。

横井 ねえー？

大溝 ごめん、ヒロコ。なに？  
横井 ううん、大丈夫かなって。  
大溝 大丈夫だよ。  
横井 そっかあ。よかった・・・。  
大溝 ヒロコー？大丈夫？何してるの？  
横井 今ね、はじめてデートに行ったときの動画見た。  
大溝 え、なんで。  
横井 不安だったから、声聞きたいなって。  
大溝 そっか。ごめん。俺も声聞きたかった。  
横井 ほんとー？  
大溝 ほんとほんと。  
横井 嘘だったら怒るよ。  
大溝 嘘じゃないって。  
横井 うーん、じゃあ信じる。  
田崎 おい。  
大溝 ん？  
田崎 深夜の電話か。  
大溝 え？  
田崎 俺と島田さんがいるってこと忘れるなよ。  
島田 まあ俺は別にいいけど、  
大溝 ああ、すいません。いやでも、気にするなってさつき。  
田崎 それとこれとは話が違うだろ。  
大溝 え？  
横井 ねえ、覚えてる？  
大溝 えー？  
横井 ヘップの観覧車乗ろうって行ったとき、ショウちゃん、それに乗ると別れるジんクスあるからやめようって言ったの。  
大溝 あ、ああ。  
横井 でも、どうしても乗りたいって言ったとき、じゃあ、二回乗ろうって。マイナスかけるマイナスで絶対別れないようにしようって言うてくれたの。  
大溝 あ、ああ、あの、ヒロコ、そういうのはちよつと恥ずかしいって言うか、  
横井 私、嬉しかったんだ。そりゃあはじめてのデートで何言ってるんだって思われるかもしれないけど、それでも、私嬉しかったの。  
大溝 そ、そっかあ。  
横井 ショウちゃんは？  
大溝 え？  
横井 嬉しかった？あのととき？  
大溝 あ、ああ、  
田崎 ほら、大溝。  
大溝 なんだよ。  
田崎 言ってやれよ。さつきと。気にしないんだろ？  
大溝 いや、でもこれは、

島田 大丈夫大丈夫、無事帰れたらネタにするぐらいだから。  
大溝 ちよつと。

横井 ねえー。

大溝 ああ。あの、二人とも、ちよつと耳塞いでてもらってもいいですか？

島田 え？

田崎 なんです。

大溝 いいから。

島田 はいはい。

二人、耳を塞がない。

大溝 ヒロコー。俺も嬉しかったよ。

横井 ……よかったあ。

大溝 あの、二人とも、もういいですよ。あの、二人とも？

島田 つく、

田崎 つぶ、

大溝 え？

田崎 俺も、嬉しかったよー。

大溝 え、あ、

島田 いや、ごめん、あの、うん、ごめん。

大溝 ちよつと、ちゃんと塞いどいてくださいよ。

島田 いや、横井の声は聞こえなかったよ。

大溝 あのねえ、

田崎 いや、ごめん、大溝、なかなか、かつこよかったよ、つく、

大溝 おまえ、殴るぞ。

田崎 無理だろ。

大溝 ここ出たらの話だよ。

田崎 覚えてたらな。俺は新年には忘れてるぜ。

大溝 ええ、あと少しじゃないかよ。どんな記憶力してんだ。

田崎 まあな。

大溝 褒めてないよ。

島田、笑う。

大溝 え、島田さん？

島田 いや、ごめん、なんか、昔のサークルみたいだなって。

田崎 ああ、

島田 おまえら、いつも喧嘩してるようで、仲良かったもんな。

田崎 なに感傷的になってるんですか。やめてくださいよ。

島田 いや、でも俺もう大学卒業するし、最後ぐらいいいだろ。

大溝 でも島田さん、内定決まってないんでしょ。

島田 それは言うな。

田崎 はっはっは。

島田 笑うなよ。

大溝 でも笑うしかないですよ。

田崎 まあ、ひどい年越しだよ。

島田 はっはっは。

田崎 まあ超えられるかはわかんないけどな。

大溝 そこがミソだよ。

田崎 大晦日だけにな。

大溝&田崎 はっはっは。

大溝 ああ、だめだ、全然面白くないのに笑ってしまう。

島田 おまえら大丈夫かよ。

大溝 あ、どうせならこのまま、喋り続けて年越します？

田崎 ああ、いいな。

島田 ええ、俺はもうさすがに眠たいよ。

田崎 え、島田さん、寝たらダメですよ。

島田 いや、普通に眠たい時間だよ。

大溝 年越しはみんな、起きて過ごすんですよ。

田崎 お、大溝、いいこと言ったぞ。

間。

田崎 今までごめんな、大溝。

大溝 いや、俺も、ごめん。

島田 まあ、みんな生きてたらいいさ。

大溝 ひろこ。

横井 なに。

大溝 ひろこ。俺、ごめん、今まで、うまく言おうとしてきちんと言えてなかったなって思って。

横井 うん、うまくなんて言わなくていいよ。

大溝 ・・・あの、島田さん、田崎、

島田 はいはい。

大溝 今度こそちゃんと耳塞いどいてくださいよ。

田崎 約束は出来かねる。

大溝 殺すぞ。

田崎 はいはい。

大溝 ・・・ヒロコ、大好きだ。

横井 ・・・ありがとう。嬉しい。でも、ああ、もっと早く聞きたかったよ。

大溝 ・・・え？

横井 なんかさ、ずっと、なんだけど、おなかの辺り感覚なくなつて。で、怖いけど今触ってみたら、

なんか、鉄かな。刺さってるのかな。

大溝 は？

横井 ごめん、なんか、血も止まらなくて。

大溝 ひろこ？

横井 なんかね、それで、さつきから、寒いんだろうなって、わかってきてて、  
大溝 ひろこ、何言ってるの？  
横井 ごめんね、しょうちゃん。  
大溝 ひろこ、  
横井 私も、全部、伝えられなくて、全部、まわりの、なんか、あれ、違う、そういうこと言いたいんじゃないくて、  
大溝 ひろこ、いいよ、喋らなくて、  
横井 ううん、これだけ、これだけは、言いたい、言わせて、しょうちゃん、ごめんね、ありがとう、大好きだよ。  
大溝 ひろこ。  
横井 ね、だから、  
大溝 島田さん、田崎、  
島田 なに、  
横井 だからね、もしね、  
大溝 こつから、出る方法、  
島田 え？  
大溝 こつから出る方法を、早く、  
島田 なに？  
田崎 大溝、  
大溝 なんでもいいからこつから出る方法考えてくださいよ。  
横井 出られたらね、二人でね、大阪で食べたね、  
島田 落ちつけて。  
大溝 頼みますから。誰かいらないのかよ。  
島田 どうしたんだよ急に。  
田崎 どうしたの、横井に何かあったの。  
横井 あれ、あれなんだったつけ、あたし好きだったやつ、  
大溝 ひろこ、  
横井 あれ、好きだったんだけどな、なんか、ぼんやり、してる、ねえ、しょうちゃん、  
大溝 ひろこ。  
横井 あたしが好きだったの、なんだったつけ。  
大溝 いいよ、もう。  
横井 そうだよね。  
大溝 ひろこ。  
横井 さつき、しょうちゃん、あたしのこと好きって言ってくれたけど、ホツとしたなあ。  
大溝 ひろこ。  
横井 あたしもね、ずっと好きだったけど、なんでかな、さつき、新鮮な気持ちで、あたしも好きだなあって思ったよ。  
大溝 うん。うん。  
横井 ねえ、もうすぐ、新年なんだよね。  
大溝 ああそうだよ。ひろこ、  
横井 でもなあ、多分もう言えないんだろうなあ。  
大溝 そんなこと言うなよ。

横井 ごめん、ちよつと、寝るね。

大溝 ……ひろこ、ごめん。大好きだ。大好きだった。全然気づいてなかったけど、俺、ひ  
どいこと言つて傷つけたけど、今気づいた。大好きだ。だから、だから、

横井 私も好きだよ。ずっと、ずっとね。

大溝 ……。

横井 新年も、たくさん喋ろうね。良い年でありますように。

明かり、ゆつくりと溶暗。

ヘリの音が聞こえる。第九はフィナーレへと達する。

舞台上は、四人のシルエットだけが残っている。

アナウンサーの現場中継の音が流れる。どこか声が高ぶっている。ヘリの音で音声はほとんど聞こえない。

アナウンサー 本日、午後四時三十分ごろ、愛知県名古屋市中村区付近でマグニチュード七点九の直下型地震が起きました。この地震により、近くのビルなどは多くが倒壊し、発生から七時間以上経った現在、救助活動は続いておりますが、多くの方が、瓦礫などの下敷きになっていく状況です。年の瀬を襲った巨大地震ではありませんが、天候などの関係により、救助活動はかなり難航している模様です。また、再び地震発生の危険性もあります、みなさま、新年を控えた中ではありますが、火元や、高層ビルの近くのかたはできるだけその場から離れてください。今私は地震発生現場の上空から……。

幕。

#### 【上演に関して】

- ※ 上演を希望される場合はその旨を「プロトテアトル」までご連絡ください。
- ※ 台詞の変更・追加・削除などは基本的に自由にしていただいて構いません。
- ※ 稽古場やワークショップでの使用はご連絡不要です。（でも一報いただけると喜びます…。）

#### 【連絡先】

プロトテアトル

e-mail: prototheater@gmail.com